

翔生 (しょうせい)

Symbol Logomark これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名 (Young



発行 全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847

編集 広報委員会

平成7年
(1995年)
11月1日号
通巻 第19号
(年2回 3月・11月発行)

Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト (若さ、情熱、広い視野をもった経営者= Youth, Energy, Generalist) を表しています。

第15回商工会議所青年部全国大会〈埼玉大会〉

「直接交流、直接実感」彩の国・集えば多土彩々。

埼玉商工会議所青年部連合会 会長 大村 晴利

第15回 商工会議所青年部全国大会 (埼玉大会) スケジュール

11月15日(水)

- YEG親睦ゴルフコンペ会場・おおむらさきゴルフコース
時間・9時～18時
- 商青連拡大役員会・前泊会場・アルシエ (王宮)
時間・19時～21時

11月16日(木)

- 商青連諸会議
会場・ソニックシティ国際会議場
時間・9時30分～12時
- 登録受付
会場・ソニックシティ大ホールロビー
時間・12時～14時
- 会員総会
会場・ソニックシティ小ホール
時間・13時～14時
- 記念式典
会場・ソニックシティ大ホール
時間・14時15分～15時45分
- 記念公演「もっと地球について語ろう」
会場・ソニックシティ大ホール
時間・16時17時30分
- YEG大交流会
会場・パレスホテル
時間・18時～20時

11月17日(金)

- 特別講演
I 共存共栄時代を生きる
II 海産物からの贈物
会場・ソニックシティ小ホール、市民ホール
時間・10時～11時30分
- エクスカーション
I 飲むのに好し、食べるに良し、語るに佳し
会場・サッポロビール埼玉工場
時間・10時～13時
- II さいたま新都心と「ゆうもあ・あーと大宮55」
会場・大宮市内
時間・12時～16時

ビジネス交流プラザ YEG全国物産展

日時・11月16日12時～19時
11月17日9時～13時
会場・大宮駅コンコース
ソニックシティ第一展示場



ごあいさつ

全国商工会議所青年部連合会
会長 辻 正 敏

大宮市において埼玉県連の主管により開催されます第15回商工会議所青年部全国大会は、いろいろな意味が込められております。

「研げ感性、広げよフィールド YEG連携時代」のスローガンを掲げて、やがて訪れる時代に経済人としての対応を思考し、模索し、あるいは実践してきた全国のYEGが一同に集い、さまざまな連携についての「思い」、「考え」をぶつけ合い感じ合える場として、そして同時に人間として個の持つ要素、これは彩 (いろどり) と言っても良いのですが、それがいかに大切かを知る場として、また、この地域の風土、文化に少しでも多く触れていただく場として等々。

日本全国から多くの経済人がいろいろな要素を持ち集う、まさに多土彩々、直接交流・直接実感であります。どうかこの場を感じていただき、「YEG連携」をより深める機会にさせていただければ主催者として幸いです。

最後にこの大会を開催するにあたり並々ならぬご努力をさせていただいております主管の埼玉県連、そして大宮YEGの皆様、また絶大なご支援を賜っております行政機関、関係商工会議所をはじめ皆様に厚く御礼申し上げます。

たくさんの人々の手によって企画され実施される本大会、首都圏で初めて開催され、第15回という節目の大会をぜひ全国のYEGで盛り上げましょう。大宮でお会い出来ることを楽しみにしております。



第15回商工会議所青年部全国大会・大宮大会は、埼玉県商工会議所青年部連合会(埼玉連) 主管のもと、大宮市において開催させていただきます。

開催日を周辺にひかえ、今埼玉連が一丸となり、最善の準備を急ピッチにて進めているところであります。

埼玉県は、大東京を有する関東平野のほぼ真ん中に位置し、首都東京の隣接県であり、飽和状態にある東京に代わる魅力あふれる果として今最も注目を集めております。その商都として繁栄し、「緑の経済都市」としてめざましく発展をしているのが開催地の大宮市であります。

大宮という地名は、武蔵野国・の宮、永川神社を「大いなる宮居」とあかめたこと由来、古社、水川の前町として山道中の宿場町として整備され、近代には東北に上越線の分岐する鉄道のまちとして輝かしい歴史をもつております。

全国YEGのメンバーが日本各地よりお集まり頂く



ための交通アクセスは抜群であり、日帰りもできる地理的条件を兼ね備えております。

大宮YEG設立10周年、大宮市政55周年という記念すべき年に「研げ感性、広げよフィールド YEG連携時代」のスローガンのもと第15回という節目の全国大会を開催させていただきます。この重責を感じるとともに、首都圏で初めてという新しい全国大会のスタイル確立をめざしております。

都会的でありながら、おしゃれで、センス溢れる雰囲気、演出のメンバーに喜びと感動を肌で感じて頂き、いつまでも記憶に残るような大会にしたいと考えております。

「直接交流・直接実感」

彩の国・集えば多土彩々といふ大宮キャッチフレーズを掲げ、大宮の地でひとりでも多くのYEGが青年経済人としての自覚と社会的役割を認識し、来るべく新世紀へ向けての飛躍の場を共有し合います。ますます激しく変化する社会情勢の中で確固たる時代認識と今後のYEGとしてのビジョンを示し、友情を深め新たなフィールドを拓け、連携の礎をなす一助となることが出来ればこれ以上の幸せはありません!

埼玉連連の長年の夢であった全国大会開催に向け、オール・サイタマひとりひとりが熱き心でおもてなしを

第15回商工会議所青年部全国大会

- 主催/全国商工会議所青年部連合会
日本商工会議所
- 主管/埼玉県商工会議所青年部連合会
- 開催地青年部/大宮商工会議所青年部

致します。全国から一人でも多い「多土彩々」のYEGメンバーのお越しを心からお待ちしております。11月15、16、17日大宮でお会いしましょう!

過去最高の YEG が参加

全国でブロック大会を開催!

九州をスタートした全国商工会議所青年部連合会の 9 ブロック大会は、東北で幕を閉じました。全国各地で、YEG の仲間は交流し、討論し、明日の地域社会を語り合いました。21 世紀はもう目前、YEG 連携軸の真価が問われるのはこれからです。

雄大な屈斜路湖を眼下に
のぞむ美幌峠で有名な美幌町で、10月9日平成7年度北海道ブロック大会が開催されました。

北海道の道東に位置する美幌町に道内229、道外31名来賓関係役員26名計286名の参加をいただきました。

阪神淡路大震災支援献血運動に始まり、第1部の分科会では、ネルテススキャン方式をとりペネラーションで辻商青連会長、仁志道青連会長、高橋美幌会長、コーディネーターを古館美幌直前会長にお願いし「生き残りかけた経済界」をテーマに熱い討論をくり広げてもらいました。

第2部の全体会議では、辻商青連会長に平成7年度のスローガン「研げ感性、

第3部の記念講演では、物たぐさん総合研究所の野島和夫社長に「北海道経済の自立は可能か」をテーマに「極集中の日本経済の中で北海道独立論を唱えてもらいました。懇親会では美幌町の一大イベント、スタターストーカーニバル風なオープニングの中、参加YEGの皆様方と「連携」について多いに語り合い青年部活動をより一層活発にし地域社会に貢献したいと誓っていました。

道内のYEG、遠路参加していただいた商青連役員皆様全国大会の大官青年部中央研発会の新宮青年部の皆様本当にありがとうございました。

「北海道独立論」に盛り上がる



北海道ブロック●美幌大会

人と物の交流 東北から世界へ

10月21日、東北ブロック大会が青森県八戸市で開催されました。

14回目を迎えた同大会には、大会史上最多のおよそ730名が登録。会場の八戸市公民館は全ての席が埋まり、主管として準備を進めた八戸青年部メンバーは1年にわたる苦労が報われ肩の荷を降ろしたという感じでした。

全体会議では「研げ感性、連携ようワールドYEG」をテーマに、東北ブロック大会が青森県八戸市で開催されました。

隣接の八戸市公会堂では東北各地のPRコーナーと青森県内を中心とする物産展示コーナーが設けられ、いずれも大変な賑わいを見せました。

一方、ホテルで行われた大懇親会では、地元八戸の祭囃子や虎舞などが披露されたほか、各地のPRが相次ぎ、賑やかな中にも和やかな雰囲気のパartyとなりました。

9月29日から30日にかけて、北陸信越地区ブロック大会を、533名という登録数を頂いて七尾市和倉温泉観光会館で開催させて頂きました。

準備段階では、前年の亀田大会を参考に、どんな大会にすべきか、悩み議論を重ねましたが、結果として七尾らしい大会にしようという事になり、実行委員会をつくって推し進めてまいりました。

キャッチフレーズを「アークセス21」と決めるにも数回の会議を重ねました。これは、21世紀を背負わなければならない世代に我々はバトンを着実に手渡さなければならないという世代であると認識し、本大会を通じて確認する機会にしたいとの願いを込めたものです。

当日は大会式典の後、大阪産業大学教授・今野修平先生の基調講演を受けて、4県の経済人代表によるパネルディスカッションを行いました。

東北ブロック●八戸大会

北陸信越ブロック●七尾大会

21世紀にバトンタッチ!!

多くの示唆を頂きました。又、懇親会には連携を確認出来た、実り有るものだったと思っております。

最後に、本大会を通じて頂いた友情の数々に、心から感謝申し上げます。

13日(金)、静岡で何かが起こった



関東ブロック●静岡大会

10月13日「第15回関東ブロック大会静岡大会」が21世紀の警鐘「このままでいいのか?未来...」の大会テーマのもと、ブロック内外から千百名が参加し静岡市民文化会館で開催されました。

第1部式典ではセレモニーの後、社長の講話を入れたマジックショーで市川会長(静岡YEG)が登場し、つくりかえの一步が見られました。

第2部記念講演では「文化エネルギーが街を素敵に変える」と題して(財)国際無志芸術研究所理事長鈴木忠志氏が文化と文明の違い、街づくりに地域にある個性的動物性エネルギーを持つ人材を育てなければいけないと意外な切り口から21世紀への警鐘をしてくれました。

第3部ミステリアスセミナー&ツアーでは25台のバスに分乗、11の分科会会場でさりげなく地場産業や歴史・文化を紹介し「静岡は来てよし、見てよし、住んでよし」をPRしました。

第4部ミステリアスパーティーは会場を日本観光地百選コンクール第1位の日本平に移し、参加者が夜景は勿論の事、参加者がそれぞれに合せて楽しめる趣向があり、紙面ではうまく説明出来ませんが正に静岡で何かが起こった気がした大会でした。

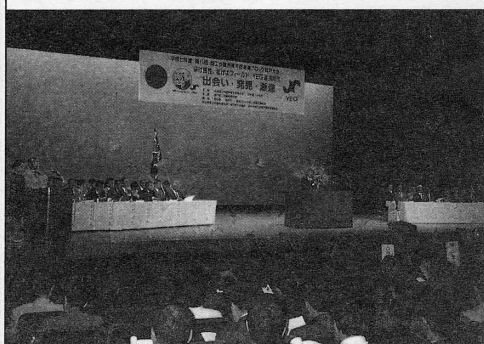


東海ブロック●瀬戸大会

ロクロ、
絵つけ体験も

平成7年9月15日(金曜日)正午より瀬戸市文化センターで開催しました。今回の大会では、各単会のご協力により登録総数が737名になりました。ブロック大会の内容は次のとおりです。

- 第1部 全体会議(式典)
- 第2部
 - 記念講演「水谷研治氏テーマ(今後の経済動向)
 - 第3部(分科会)
 - 第1分科会 本業を訪れて:出合い
 - 第2分科会 陶芸のころ
 - 第3分科会 セラミックの展望と未来
 - 第2分科会 陶芸のころ
 - 第3分科会 セラミックの展望と未来
- 第2部 陶芸のころ
- 第3分科会 セラミックの展望と未来
- 第2分科会 陶芸のころ
- 第3分科会 セラミックの展望と未来



関空への
熱い期待

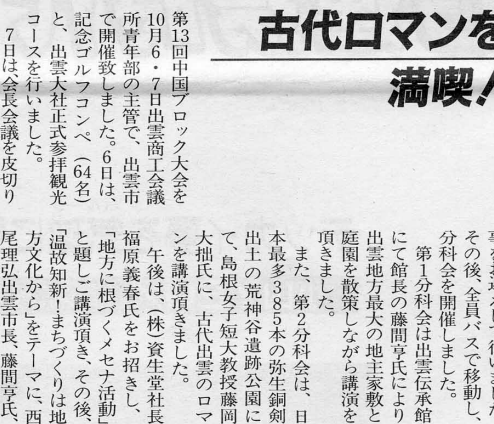


9月9日(土)秋晴れに恵まれ、第13回商工会議所青年部大会が、大阪府高石市に於いて、コテイクオフYEG 21世紀近畿の展望と関西国際空港の展望に高石商工会議所青年部の主管で最高齢の650名の青年部員が参加した。午前中の第1部式典に続き、午後から第2部全体会議が行われた。会議では南青連辻正敏会長の講話に続き、関西国際空港の社長より概要説明が行われた。記念講演は地元高石出身の「Jリーグ」チェアマン、川淵三郎氏により、「Jリーグの経営戦略」をテーマに行われ、会場は終始熱気に包まれた。

又、関空が開港して9月で1年となり今後の近畿がどのように変貌するのかを討議する「パネディスカッション」に入り、浜村淳氏が

近畿ブロック●高石大会

古代ロマンを
満喫!



第13回中国ブロック大会を10月6・7日出雲商工会議所青年部の主管で、出雲市記念ゴルフコンペ(64名)と、出雲大社正式参拝観光コースを行いました。7日は会長会議を皮切りに、記念式典を、島根県知事

ネラーには川淵三郎氏、木村啓介氏、ジャニーナリス、近藤三津枝氏、エキスボランド社長、山田三郎氏、辻会長と多彩な顔ぶれが揃い、活発な意見が交わされました。府県別討論会では近畿2府5県を5つのブロックに区分し事前アンケートの集計結果に基づいて、「関西国際空港開港による近畿のイメージアップ及び市内域の動向変化と事業展開について」また、「YEGの地域連携について」の2つをテーマに白熱の論議が行われた。第3部の懇親会では地元泉州だんじり祭ばやしでメンバーを迎え、入場後国際的に評価の高い地元羽衣学園コーラス部による合唱が演じられました。

中国ブロック●出雲大会

鳳翔太鼓が
鳴り響く!!



第12回商工会議所青年部四国ブロック大会は、9月21日、22日の両日、徳島県鳴島町に於いて鳴島商工会議所青年部の主管で開催されました。四国4件を中心とした。大会1日目は、早朝より会長会議が開催され、引き続き第1、第2、第3分科会が行われました。会場を移動し、全体会議が開催されました。

第15回記念大会に
1,000名が参加



第15回商工会議所青年部九州ブロック大会が、夏の暑い中7月14日に串間商工会議所青年部が主管で、九州各県及び全国の役員を含めて1千名が参加して開催されました。ブロック大会が開催された串間市は、第一次産業を中心とした田園都市であり、観光地は都井岬の鴨島で知名度が高く、陸・空の交通アクセスが悪い地域での大会開催は、第一産業を主眼として意見交換をしながら親交を深めていきました。今後、中小企業を取り巻く環境は益々厳しくなっていくと考えられます。この大会で培われたノウハウを、21世紀にわたる企業人ととのステップにして、今後の青年部活動に活かしてもらいたいと思います。

事をお迎えて行いました。その後、全員バスで移動し、分科会を開催しました。第1分科会は出雲伝承館にて館長の藤間亨氏により出雲地方最大の地主家敷と庭園を散策しながら講演を頂きました。また、第2分科会は、日本最多385本の弥生銅剣出土の荒神谷遺跡公園にて、島根女子短大教授藤岡大拙氏に、古代出雲のロマンを講演頂きました。午後には、(株)資生堂社長 福原義春氏をお招きし、「地方に根づくメセナ活動」と題し講演頂きました。その後、「温故知新!まちづくりは地方文化から」をテーマに、西尾理弘出雲市長、藤岡亨氏、藤岡大拙氏、長野忠山除中

会には多くの困難を抱え解決の為に全員の体力と知恵・気力を使いました。大会は、式典・分科会・記念講演が開催されましたが、串間大会の特色を出す為、第3分科会で「体験は己の財産」と題し、日本一の生産を誇る寿かんしん「いも堀」を企画、参加された150名の方々は童心に戻り汚れるのも忘れて大きな芋を掘っていました。大会終了後、懇親会が開催され緊張していた気持ちが解け、新鮮な海と山の幸が一杯に盛合わせられたテーブルを囲み、酒を交わしながら青年部事業と活性化について意見交換をしながら親交を深めていきました。今後、中小企業を取り巻く環境は益々厳しくなっていくと考えられます。この大会で培われたノウハウを、21世紀にわたる企業人ととのステップにして、今後の青年部活動に活かしてもらいたいと思います。

九州ブロック●串間大会



「海の幹線」で熱気

釧路YEG/北海道ブロック

釧路YEGは昨年11月に設立されました。現在は会員63名で事業は月1回例会を中心に3つの委員会が活動しています。委員会はそれぞれ地域対策を担当する「らぶ・くしろ」委員会、産業政策を担当する「しごとづくり」委員会、交流部門を担当する「なかまづくり」委員会とひらがなで統一。最近の主な活動は「テクノスパーライナー」(TSL)を題材にしました。TSLは海上を時速10



0キロ以上で走行できる船で「海の幹線」とも呼ばれ、海上高速輸送次世代の担い手として現在実用化に向けて開発が進んでいます。8月31日には実験船が釧路寄港ということで、まず事前に例会でTSLの勉強会を行い、実際の寄港の時には、はじめての対外的活動となるオープンセミナーを「TSL技術研究組合」の中管理部長を講師にお招きして開催。会場は満杯で予想を上回る反響でした。TVの天気予報で「一番気温が低い表示の釧路です」。

クルーズ船で「ビッグイベント」

能代YEG/東北ブロック

大型客船「サンシャインふじ」によるクルージングは、10月22日夕刻出港しました。昨年度は能代港が開港して20周年の節目であり、青年部が中心となり実行委員会を組織して、能代港で「みなと祭り」を実施。グレードアップした企画をと、本年度は客船の誘致を計画いたしました。

本年度の実行委員会は広域的に組織し、実行部隊はすべて青年部のメンバーが担当。委員長は青年部5周年の会長(現在相談役)が努めました。

本クルージングには、能代市民を中心に約700名が参加しました。能代港に到着してからのビッグイベントであり、本年度のみならず最後のイベントとして位置づけ、2泊3日の予定で、小樽へと能代港を出港。残念ながら



台風14号の北上で予定を半日繰り上げ、無事帰港しました。

サンシャインふじは、能代港1万5千トン岸壁に20日午前9時に接岸し、外航船の入港風景にふれる機会が比較的多い市民ですが、客船の寄港は少なく、白を基調とした船姿で、独特な雰囲気を出していました。

国内最大級の客船チャーターは、能代港の役割等について関心を深めてもらうことが最大の狙いです。そして、参加者には船旅と小樽の観光および船内でのジャズコンサートなどを楽しんでもらいました。

連携軸でゴールラッシュ

豊田YEG/東海ブロック

「豊田市にゴールズ」

今年4月、愛知県は豊田市に、2002年ワールドカップの国内開催候補地を決定致しました。

豊田YEGは、昨年9月豊田で、実に25万人の署名を集めた「6万人収容の大規模球技場建設に係る署名」へ積極的に参加し、球技場をめぐる議論の中で、球技場の建設に積極的に関与するまの街豊田市の発展の空掘きの荒波をいかにこれからの豊田市の発展に貢献すべきかについて、その一つの解答として「大規模球技場」と「スポーツ文化による街づくり」の視点で取り組みを開始しました。

本年、10周年を迎える我々豊田YEGは、6月に平塚YEGを訪問、「ヘルムール効果」を探究し、Jリーグを誘致しようとする小



山YEGと、Jリーグチーフマン川淵氏の出身地である高石YEGによる絶妙なYEG連携軸のアシストを受け、一般市民を対象とした記念講演の講師として「スポーツ文化の伝道師」Jリーグチーフマン川淵氏をお迎えし、「産業文化交流都市」を宣言するこの街で新たな産業と文化の融合にむけて、記念すべき一歩を印す事業として参ります。全国YEGの皆様への熱い友情に感謝を致します。

震災被害の子供達を招いて

京都YEG/近畿ブロック



阪神大震災が起こった直後から、京都YEGは、救済物資を届けることから活動を開始しました。

そして、被災地の小学生を京都に招待しようと「京都わんぱくクラブ」の計画を始めたのは、今年2月の中央研修会の受け入れ準備の真ん中頃でした。

京都府連と兵庫県連が主催、京都YEGが主管をするこのことになりましたが、いろいろな団体から予想以上のご協力をいただきました。ジュネス会社やお菓子公司から商品の提供を、バス会社から無料バスを、マンガ家の先生はサマーサントのキャラクターを描いてくれました。もちろん各地のYEGの支援も大きな支えとなりました。ボランティアグループ、お医者さん、本当にありがとうございました。

7月下旬から8月中旬まで3班に分かれて実施されました。

第一班は西宮の子供達100人を、第二班は神戸の子供達100人を、京都府立南山城少年自然の家、第三班は淡路島の子供達70名を「京都府立青少年海洋センター」へ2泊3日で招きました。キャンプファイヤー、工作、クルージングなど楽しひひとときを過ごして頂きました。

この場をお借りしてご支援くださったYEGの同志に感謝を申し上げます。

特集 全国各地から……

研げ感性、広げよフィールド YEG連携時代

体と体をぶつけ合い、激しい議論に熱中し、全国でYEGが、地域の創造に取り組んでいます。北から、南からYEGの活動が届きました。震災や経済不況に「負けてたまるか!」というYEGの叫びです。

盛り上がる「となみ夢まつり」

砺波YEG/北陸信越ブロック

砺波商工会議所青年部の祭りの2大事業の1つに「となみ夢まつり」があります。チューリップフェアで有名なチューリップ公園で例年8月の最終土・日に開催され、今年は8月26日、27日の両日でした。

26日は「ふる里盆踊り大会」が前夜祭事業として行われ今年で10回を数え、年々参加人数が増え、今年は300人が参加しました。

27日は祭り当日で、午前10時のテープカットで始まり、午後5時の閉会式までの7時間に約2万人が来場。青年部が各コーナーに汗を流しました。

祭りのコンセプトは、「市内の商工業の発展の紹介、子供達に最後の夏休みを楽しんでもらう祭り」です。各コーナーを紹介します。

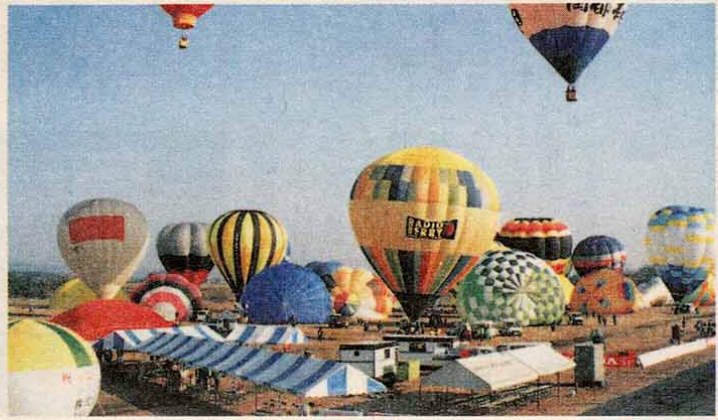
①体験コーナーでは石の彫刻・キーホルダー作り・チューリップ染めといったさまざまなものづくりが作りました。②フリーマーケットでは、たくさんの方が参加、自由に物販をしていただく。③展示コーナーではいろいろな動く車の展示・体験④ステーションでは、クイズ大会や大声コンテスト⑤飲食コーナー



では飲食青年部の協力による販売といったさまざまなイベントが1日で行われる祭りです。

デッキ夢を気球に乗せて

小山YEG/関東ブロック



小山YEGは、昨年の関東ブロック大会を機に、様々な地域振興事業に積極的に参加しています。中でも、近隣3商工会青年部、小山JC・小山YEGの若手5団体を中心として行う「熱気球日本グランプリ」の開催に向けて、日夜議論を重ねています。

大会開催による商工業の振興、地元経済への波及効果をもたらすべく、小山の若手経済人は日々奮闘しています。

この大会の大きな意義は、全体的実行委員長が小山YEGメンバーから選出されたこと。形式だけでなく、

小山YEGは、昨年の関東ブロック大会を機に、様々な地域振興事業に積極的に参加しています。中でも、近隣3商工会青年部、小山JC・小山YEGの若手5団体を中心として行う「熱気球日本グランプリ」の開催に向けて、日夜議論を重ねています。

大会開催による商工業の振興、地元経済への波及効果をもたらすべく、小山の若手経済人は日々奮闘しています。

この大会の大きな意義は、全体的実行委員長が小山YEGメンバーから選出されたこと。形式だけでなく、

「お城まじり」の熱気

丸亀YEG/四国ブロック

丸亀商大会議所青年部は、昭和59年に設立され、今年10周年を迎えたばかりの心身共に若い青年部です。

丸亀市は全国の下町の中心にあつては大きくはありませんが、全国に12城しかない木造天守閣や扇の勾配と呼ばれる美しい石垣のある築城400年を迎える丸亀城があります。

この丸亀城を中心に「丸亀お城まつり」が毎年5月

に3日間開催され、日本の太鼓祭り・大パレード・丸亀お城村などに多数の人々が参加しています。当青年部は「お城村」にワクワクランドを設けて子供達に夢を与え、おもいきって遊べる場所を提供しています。

また、地域住民と青年部会員の啓発と協力を目的に、ケント・ギルバート氏、橋本聖子氏など経済界、スポーツ界などより著名な講師



を招いて、毎年定期講演会を開催しています。

さて、当青年部は広報総務・会員強化・例会運営・事業推進・親睦交流の5つの委員会によって運営されており、毎月各委員会を居酒屋などの「ざっくばらん」な場所にて実施しているため、会員相互の親睦と連携も密であると自負しております。

おいしい「さぬきうどん」

ジャンボふく鍋で

下関YEG/中国ブロック

当青年部は、昭和55年11月7日、山口県下8番目の青年部として設立されました。

現在の現役会員数113名で運営されています。

本年度は、創立15周年を10月21日に控え実行委員会を中心に奮闘しているところ。

ところで、当青年部のユニークな活動を紹介します。

下関のイベント等で、下関を代表するふく鍋を材料としたふく鍋、名付けて「スパージャンボ鍋」を仕込み、市民の皆さん又は来場者に振るまっています。

春の5月には下関海峡まつり、冬の11月には下関さ



な祭りを恒例とし、また平成6年11月20日に山口県長門市で開催された「第14回豊かな海づくり大会」に参加、県内外の招待客4000名の方々にふく鍋で接待しました。その他、今年1月の阪神大震災で被害にあわれた皆さんに、少しでもお役に立てればと、有志が集まりふく鍋を多くの方に食べていただきました。

さて、スパージャンボと名がつくにはそれなりの大ききでなければお話しになりませんが、その鍋は、アルミ合金製で長さ5m幅4m高さ2.2m容量6m³一度に約2万食分が仕込まれます。鍋の形は勿論ふくの顔になっています。

昨年、新しく製造し直し2代目のふく鍋です。

我々青年部はこのスパージャンボふく鍋が下関市のPRに役立てばと考え、これからの恒例の活動として続けて行きます。



古来、鹿児島薩摩藩では曾我十郎・五郎兄弟の故事に習い、「忠義と孝行」を重んじています。明治以降よりも郷中教育と言われ、市内の各学舎による道徳教育が行なわれ、その一行事として不用和傘を集め、戦後の一時期を除き、毎年「曾我十郎の傘焼き」という伝統行事が行なわれてきました。

しかし、平成3年以降、会場となる「甲突川」の増水や後継者不足などの諸事情により残念ながら中断されてきました。

鹿児島YEGでは独自の「郷中教育」の中で育われてきた、鹿児島三大行事の伝統文化を守り正しく継承して行こうと、本年度「かごしま祭委員会」を新たに設置し、岐阜市和傘組合の義援や関係者の協力を得ながら和傘500本を集め、4年ぶりに復活させることが出来ました。

さる7月29日、当日の夜は好天にも恵まれ、甲突川の堤防には約2万人の観客が集まり、河井会長、坂口副会長以下青年部会員も、鉢巻にまわし姿で、傘焼衆として参加し、傘と共に地域を愛する心も熱く燃やしていました。

「曾我十郎の傘焼き」を復活させる

鹿児島YEG/九州ブロック



角口 賀敏
商青連副会長

戦後50年目を迎えた今年、21世紀まであとわずか4年と少しくなりました。1年を振り返るにはいささか早い気もしますが、平成7年は、従来の経済的・社会的・文化的なモノの在り方が大きく変容しつつあるのを実感した年でした。

経済をみれば、単に我が国だけを視野に入ればよかった時代はとうに過ぎ去り、企業が生き残っていくために海外法人をつくること、がいつそう促進され、それに伴い国内の雇用が落ち、全体の不況に拍車をかける事態に陥っています。アジア地域の日本企業に200万をこえる雇用者が存在し、

「混迷・混純」から「共創・共働」へ

我が国はいままさにアジア経済圏のキーマンとなりました。いや、好むと好まざるに、いまや日本経済の浮沈は、世界経済の浮沈に關わっているのが現状でしょう。

社会・文化を横断した現象として、これまでの日本社会には見られなかった「オウムサリン事件」のような欧米型テロが頻発し、社会不安を増大させています。

混迷やら混純やらといわれ、いわば世紀末的不安が高まる中、今一度原理原則に立ちかえり、未来を見直し、将来を考えていくことが、私ども新宮YEG主管の第

「混迷・混純」から「共創・共働」へ

13回中央研修会(平成8年2月7日・8日)では、記念講演として、戦後の日本経済の立役者の瀬島龍三先生をお迎えして、先生の生き方と過去の歴史、そして我々青年経済人はいかに行動していくべきかを語っていただくことになっていきます。

「情報」をいかに得、いかに生かすか、よりいっそう問われているのがいま現在の状況ではないでしょうか。そこで、社長は「YEG地域連携」を方針にたて、あらたなネットワークの構築を意図されたわけですが、その方針からさらに「共創・共働(コラボレーション)お互いの能力や特技をシェアリングしながら相互に刺激しあう協力しながら新しいビジネスや活動を展開していくこと」

を目指し、本研修会では、各地の地域連携員体例の発表が、各単会の代表者同士が、出来るだけ多くの情報を持ち帰り、青年部活動に、また事業に生かされるよう、同業種とか、年代などの小グループに分け、多くの発言ができ、また多彩な意見を聞ける機会を設けています。今後、小グループから新しい連携軸が生まれんことを期待しております。

「混迷・混純」なんかは怖くありません、本当に怖いのはそんな状況に埋没し、我を忘れることです。過去を知られ、新しきを加える「温故知新」ならぬ「温故加新」の作業と「共創・共働」の発想・行動があれば必ずや未来が見えてくると、たく信じています。

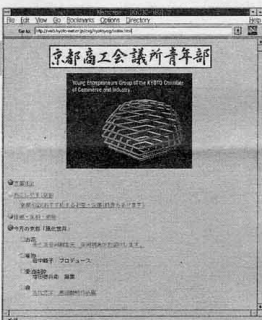
京都商工会議所青年部 インターネットで 情報受発信

京都YEGと有志企業25社は、9月下旬から11月にかけ世界最大の情報受発信網、インターネットを使って自社製品の通信販売や予約受付などの営業を始めた。

インターネットで情報を受発信する企業は工芸品、陶器、あん、旅館、アパレル、工務店、飲食など幅広い業種にわたる、来春には50社を超える。

京都YEGはこれまでインターネットを利用して地場産業をPRし、発展させる方法を話し合ってきた。しかし、中小零細企業の集まりであるYEG企業にとって最

大のネックは経済性であった。地域、使用状況によって異なるが、1年に100万円は覚悟せねばならなかった。しかし、京都市が応援するインターネット基地「京都アイネット」が4月に誕生して状況が一変した。個人の場合、市内電話料金プラス年額6,000円で世界中と情報交換が出来るようになったのである。これによって京都の中小企業がバーチャルな事業展開が可能になったのである。販売だけでなく、仕入れも世界中から行えるのである。中小零細企業が企業に打ち勝つには、又、商店街の生



第13回 中央研修会を 新宮(和歌山)で開催!

「能野アロハスピリッツで」



新宮YEG
会長 夏山 晃一

平成7年度「第13回全国商工会議所青年部連合会中央研修会」は、来る平成8年2月7・8日の両日、地方小都市での初めての大会として、新宮YEG主管のもと和歌山県新宮市において開催させていただきます。

当地は、熊野地方の中核として、紀伊半島の南端に位置し、中世から「蝶」の熊野詣で知られる熊野三山信仰のメッカとして栄えた、紀南の中心都市であります。又、この度、本研修会を主管させていただきます私ども新宮YEGは、昭和61年8月22日に発足以来「豊かで住み良い街づくり」をスローガンに創意と工夫をモットーに取り組んでおり、本中央研修会開催を実現出来ることは、地域活性化の一助として、この上なく喜んでいられるところでございます。

これまで、中央研修会が県都もしくはそれに準ずる都市で開催されて参りました。交通アクセスの面からいえば、私どもの熊野はその意味では辺鄙な土地であり皆様に迷惑をおかけするかもしれない。しかし、そのハンデをほんとしてではなく古来より残されてきた郷土の持つメリットとして受けとめ、今までにない研修会とすべく、熊野アロハスピリッツの精神をもって必ずや実りのある大会を実現するため情熱を燃やしております。

全国の皆様には、是非とも悠久の地「熊野」にお越し下さいませよう宜しくお願い致します。

第13回全国商工会議所青年部連合会中央研修会タイムスケジュール

2月6日(火)	15:00~17:00 21:00~22:30	お灯まつり参加者受付並びに着替え 前泊者懇親会 場所/万米或いは新宮市福祉センター
2月7日(水)	9:00~12:00 12:45~13:45 13:45 14:15~14:30 14:30~14:45 15:00~16:30 16:40~18:10	エキスカージョン 中央研修会登録受け付け 第13回中央研修会開会 基調講演1 商青連会長 辻 正敏 基調講演2 次年度会長予定者 松田 祥吾 事例発表 YEG連携 五グループ程度 地域連携軸についての対談(パネルディスカッション) 清水浩志(秋田大学教授、三浦真紀(国土総合交通課課長補佐ほか同業種・地域分け等による交流会 ミニ交流会
2月8日(木)	9:30~10:40 10:40~11:50 12:00~13:00 13:00~15:00	記念講演会 会員総会 委員会別昼食会 平成7・8年度役員引継会

き残りかけた戦いにも、インターネットが強力な武器になることを信じて疑わない。

処で、全国で関心があるYEGの皆様、我々のノウハウを提供し、全国的な情報網を作りあげたいとも考えています。まずは、クリックして実際に御覧になって下さい。

<http://web.kyoto-net.or.jp/org.kyotoyeg/>
連絡先: 京都商工会議所青年部副会長 石田哲也 030-71-36107

翔生 Communication PLAZA

こちらも連携時代

「日本JC」と「商青連」のトップ会議が実現!



▲山本・日本JC会頭(左)と辻・商青連会長(右)

今までなかなか実現しなかった日本青年会議所(日本JC)会頭と全国商工会議所青年部連合会(YEG)会長のトップ会議が、8月2日実現しました。

会談では、率直な意見交換がされ、「それぞれの団体が一層協力し、枠にとらわれない柔軟な対応が必要だ」といった様々な意見がだされました。

また、今後とも、地域経済の発展のためにJCとYEGが交流・連携し、足りないところを補完しあえる体制づくりが望ましいことを確認しました。



国土審議会から「四全総総合的点検調査部会報告書」が発表され、「地域連携軸構想」が打ち出され、日本の国土の構造改革、活性化推進の構想が強く提言されました。平成7年度商青連活動方針の柱となっているYEG連携活動についてレポートします。

鹿児島ー青森間2、150kmを走破! 日本縦断キャラバン交流を実施(鹿児島YEG)

本年7月、鹿児島・宮崎県民には待望の九州高速自動車道路「えびのー人吉」間が開通しました。これによって北は青森まで、鹿児島から高速道路を降りずに

行くことができるようになりました。これを機会に、鹿児島県の観光キャンペーンをかねて青森YEGとの協力で地域連携を検証しようというこ

とになりました。一行は、浜田鹿児島県商工労働部長を団長に、鹿児島YEG(松山全国大会誘致委員長以下6名)、青森YEG(齋藤義博専務理事以

下3名の総勢17名、走行時間30時間、休憩時間を含めると38時間のYEG連携の旅でした。この高速道路が開通したおかげで、物、情報が多量に流入してきます。鹿児島、宮崎両県にとってはアジア近隣諸国との交易を見直すとともに、北に向けてのビジネスチャンス、マーケット規模が広がることを意味します。

第1に、時間の短縮は肉体的に、心理的に大きな変化をもたらします。第2に博多、北九州間への距離が近くなりスペースワールド、ハウステンボスといった観光施設と、鹿児島島の自然と宮崎のシーガイアとのドッキングあるいは独自に南九州をパッケージする観光企画を創出します。錦江湾・奄美の海のクルージングを取り入れた鹿児島・宮崎のオーシャンリゾートを包括した独自の観光ルート2、150kmの間にある8サービシアreaで10県連40人のYEGの仲間とふるさと特産品及び観光資源情報などの交換をいたしました。

それぞれの地域ならではの特産品の差し入れをいただき、新たな交流と新たな連携に向けてスタートを踏

み出すことができました。知らない土地で新たな出会いがあり、人との新しい交流の芽が生まれました。最終ゴールの青森では、150kmの走破と南国と北国の交流を祝して、陸奥湾のクルージングに青森YEGから招待を受けました。



「紀伊半島内の経済連携を考える会」が発足

紀伊半島が「地域連携軸構想のモデル地区」に指定されたことがきっかけになり、三重、奈良、和歌山3県と大阪府南部のYEGの有志が集まり、「紀伊半島内の経済連携を考える会」がこのほど発足しました。

4府県からそれぞれ1名発起人と有志が集まり、これまで3回の勉強会が開催されました。

紀伊半島は、海山の自然や歴史風土に恵まれた日本

最後に、連携とは「お互いに蜜に連絡をとりあって、モノゴトを実施すること」であり、交流とは「違った色合いのものが、お互いに入り交じること」であります。

(商青連特別委員長、鹿児島YEG会長・河井達志)

一大きな半島です。しかし、交通アクセスをはじめとするインフラ整備が大きく立ち遅れています。

関西新空港の開港や新中部国際空港の計画決定、さらには第2国土軸構想など大きく動き出そうとしています。

4府県の仲間が集まり、情報交換と人の交流を通じて新機軸を打ち出せたらと考えています。



アメリカ経済の潮流に触れる! YEG米国視察研修に24名参加

参加者のひとりごと

松田祥吾(長崎)

米国研修では、中小企業見学と、実際のアメリカの中小企業者の生の声を聞いたのは大変な収穫でした。

津田純一(京都)

明るさ、陽気さ、大きさ、大らかさ、すべて私達を越えていると思います。まだまだアメリカに学ぶところは多いと思いました。

三宅章(玉野)

あらゆる面で積極的なフロンティアスピリットにふれ、目が覚めました。

石原将宏(彦根)

日本の混沌とした状況を考えると、果たして、日本はこれで良いのかと考えてしまう。人種のモザイク国家のデモクラシーのルールの中から湧き出て来るエネルギー。日の出する国のエネルギーは何処に行っちゃったんだろう。

前田和弘(鹿児島)

あらゆる形態や流れが二極に淘汰されようとしているように感じられました。

伊能富雄(伊勢崎)

アメリカの巨大なパワーを行く先で感じられた。自分で描いていたイメージとオバーラップし、方向性を見失ってしまいそうであった。

鈴木悌介(小田原)

大きな不安材料を内包しながら、前向きに、プラス発想で生きる姿勢は、今の私達日本人にとっては是非習う必要がある。

岩滝絵美子(京都)

これからは日本が独自の日本の歴史と風土と文化に沿った、日本的経営を行っていくべきときがきたと感じました。

神谷竹彦(浜松)

今まで他の団体に参加した海外研修にも数多く参加してきたが、YEG海外視察研修は、他にない大変優れた企画であったことをもっと自慢してもいいと思ってる。

山崎宗夫(松代)

Prof. Nataniel教授の話からは既に何があつても切れない仲となっている日米関係再認識し、先端産業においては国境を越えた世界的な連携が必要であることを知された。

加島茂(玉野)

日本の場合、国土が狭いにも関わらず有効な利用がなされていないので、土地の立体的な利用・建物の高層化が必要であらう。

角口賀敏(新宮)

消費者のニーズは安売りにだけなく、「こだわりの時代」に入っています。一歩先を行くディスプレイや、店舗そのものをランド化してしまふなど、様々な工夫が見られました。

滝口富美子(茅ヶ崎)

「アメリカがよくなるのは2000年に入ってからです。賃金は日本の約三分の一、労働生産性は三倍になるでしょう」と語る富沢氏(日本経済環境問題研究所・所長)の言葉は強烈でした。

賢木新悦(秋田)

街づくりに市民の声を聞くのは基本である。しかし個人によって価値観の違いは大きい。そこで民主的に決定する方法をとる訳であるが、ホストンの開発局の姿勢は公共の利益を優先するという理念がありました。

児玉龍之介(小林)

流通業は消費生活に変革を迫られており、新しい流れで進められて色々と模索している過渡期であらうと思う。

妹尾隆哉(鹿児島)

懐の深いアメリカのパワーに負けないように、西暦2000年を生き抜いて行かなければならないと感じました。

野村忠秀(松山)

我々中小企業者も視点、この伝統と発展を手孫に伝えるために、京都でYEGとして市民レベルでなすべき事はいっぱいある筈だと再認識した。

市川誠(京都)

わが愛する京都のために、この伝統と発展を手孫に伝えるために、京都でYEGとして市民レベルでなすべき事はいっぱいある筈だと再認識した。

池田寿子(京都)

「ホストン」は京都人にとって、落ち着く街、古くして新しい街、理想とする市再開発局の行政指導の内容のお話しを聞き、京都と比較すると啞然としました。

河井達志(鹿児島)

生活者の心を何処に据えて行くか、過去に囚われないうアメリカらしい進取の感覚を窺い知れた。

YEG「連携事業」に大きなはずみ!

YEG米国視察研修団 団長 辻正敏

全国商大会議所青年部連合会が平成七年度の最初の事業として行った「YEG米国視察研修」は、混沌とする経済環境の中、国内外から日本を見つめよう、それも常に新しいアイディアの最先端を歩み続けているアメリカからみた日本を感じて来よう、そして今年度商青連が提唱する「YEG連携事業」のヒントを見つけてみようとして実施いたしました。また、本年は、日本商工会議所の機関紙

「石垣」の発刊十五周年にも当たり、それを記念しての事業ともなりました。企画立案から実施までの時間が短い中、商青連研修第2委員会とのスピーディで、なおかつ綿密なプランニングにより他に類を見ない大変有意義な研修になったと自負いたしました。

本研修に関しまして、いろいろとご支援頂きました京都産業大学柳原教授、研修訪問先で大変たいねいねい解説を頂きまして現地コーディネーターの皆様、そして本研修を最初から最後まで無事に導いて頂きました近畿日本リースのエンジニアの方々に心より御礼申し上げます。

「YEG米国視察研修の意義」

京都産業大学経営学部教授 柳原範夫氏

周知のごとく、戦後五十年に及ぶ今日まで、日米両国は安全保障、経済、貿易、社会、文化、教育など、様々な分野で密接不可欠な関係を構築しながら、良きパートナーとして、相互理解

の上に、良好な関係を維持してきたことは間違いない。しかしながら、近年、貿易摩擦に端を発した経済問題は、かつて考えられなかったほどの重要な影響を、日米双方の国にももたらせているように思われます。なぜ今日、このような経済摩擦が浮上してきたかについては、日米間のそれぞれ理由によつて異なることは間違いありません。しかし、自由経済を信奉し、世界経済の中で大きな役割を占めている日本と米国は、これからの良きパートナーとして、グローバルな経済の発展に一層寄与して行くことが何よりも大切

YEG米国視察研修日程表

日時	月	日	滞在都市名	内 容
1	6月	25日	東京発 サンフランシスコ着	・派遣視察 ・コスト・プライス・クラブ ・日米関係セミナー ・サンフランシスコ州立大学
2		26日	サンフランシスコ	・マルチメディア関係企業 ・インテル社訪問 ・派遣視察 ・アメリカ最大のアウトレット ・センター・ザグレイトモル訪問
3		27日	サンフランシスコ発 ボストン着	ボストン泊
4		28日	ボストン	・ベンチャー企業訪問 ・Spring Management & Capital社 ・都市開発視察 ・ボストン市再開発局訪問 ・町づくりの現場視察
5		29日	ボストン発(列車) ニューヨーク着	・ニューヨーク証券取引所視察 ・ニューヨーク市内視察 ・ウォール街、国連等 ・商工会議所関係者との夕食会
6		30日	ニューヨーク	・商業視察 ・パワーテレーサーやオププライズ ・ミュージカル見学(オプジョン)
7	7月	1日	ニューヨーク発	
8		2日	東京着	

（本稿は、YEG米国視察研修団の企画に関して種々の指導をいただいた京都産業大学経営学部の柳原教授から、団出発に際して寄せられたものの抜粋です。）